

## ②6 銚子犬吠埼周辺の自然 多様な地質と海岸固有の植物たち

【概要】銚子半島は千葉県の最東端に位置し、北は関東平野を横断し太平洋へ注ぐ利根川、東から南はその太平洋を臨み、三方を海と川の水域に囲まれ、変化に富んだ海岸線を形成している。その海岸沿いに中生代から現在までの広範な年代に亘る多様な地質が点在し、強い潮風と陽射しを受けて、厳しい環境に適応した海岸植物を見ることができる。

### 【地質の特徴・見所】

高さ 50m の断崖絶壁（海食崖）が 10 km 連続する屏風ヶ浦の雄大な景観は、悠久の時間が造り上げた自然の創造物である。青い海と紺碧の空と連続する地層の対比は見るものを圧倒する。浸食が年／1m として、屏風ヶ浦の陸地は現在よりも 800m 程沖合だったと想定される。その昔海岸線や陸地の形、人々の暮らしぶりはどうだったろう。

「犬岩」は大陸起源の付加体とよばれる地質帯である中生代ジュラ紀の時代で、関東最古の岩石といわれる。犬岩を中心に左右に個々の岩塊が立ち並んでいるが、これは強い力が反対方向に引っ張られ、断層がずれこみ落ちたために形成された岩礁で正断層の作用を観察できる。6 つの岩はさしずめ犬岩の家族のよう。

悠久の時代の気候や生物の動向、また地球上で起こった様々な事象に想いを馳せるのも楽しい。

「千騎ヶ岩」と「愛宕山」も同じ時代の付加体と呼ばれる地質体だ。犬吠埼灯台足下の荒磯には、中生代白亜紀の浅海性の様々な堆積構造（生痕化石・砂岩泥岩互層・斜交層理など）が保存されている。大地の成り立ちとしくみに気づき、現在の社会との関わりを改めて考える場所といえる。

2012 年 9 月に銚子市全域が日本ジオパークに認定、更に屏風ヶ浦が 2016 年 3 月に国指定の名勝および天然記念物に指定された。

### 【植物の特徴・見所】

銚子半島の東方沖合は、黒潮と親潮が接する地。この寒暖流は植物の分布にも影響を与え、銚子を北限、南限とする植物も見られる。イソギクやソナレムグラは茨城県以北では見ることはできない。植物の生育立地は、浜辺、砂丘、崖地、岩場などがある。海からの塩分を含んだ強い潮風と、強い陽射しの照り付けによる乾燥の作用により、茎は太

く短く、葉は厚く多肉に小さく頑強な形を作る。触ると肉厚で硬い感触があり、葉の表面はクチクラ層で覆われ「海岸型」と呼ばれる。この厳しい環境は高山帯と共通しており、「ソナレ：磯馴れ」や「ハマ……」は内陸種が海岸環境に適応変化した種であり、秋の屏風ヶ浦台地に花咲くマルバハマシャジン、ソナレマツムシソウなどがある。厳しい自然環境のもとで生育している植物たちも、環境の悪化にともない徐々に希少種、貴重種となっている。

### 【コース紹介】

「屏風ヶ浦」銚子マリーナ駐車場から舗装された道を行くと犬吠層群から関東ローム層まで各地層の連なりを観察できる。屏風ヶ浦台地上は内陸の海岸型や希少種の植物が自生する貴重な地域である。来た道に戻り、千葉科学大学を左手に見て海岸沿いに進むと右手前方に両耳をツンと立てた②「犬岩」に着く。岩場にはハマボッサ・タイトゴメ・ソナレムグラなどの海岸植物が生育している。③「千騎ヶ岩」は犬岩と同じく義経伝説が残る。④「渡海神社」道路を横切り前の坂道を上ると鬱蒼とした森に着く。海岸近くの極相林としてタブノキ・スダジイの高木、アオキ・モチノキ・トベラなどの低木で構成、県の天然記念物に指定。

さらに進むと標高 73.6m の⑤愛宕山（地球の丸く見える丘展望館）言葉通りの景観が眺望できる。ここから⑥犬吠埼灯台まで 1.6km。灯台足下の岩場に降りると色々な堆積構造を観察できる。道沿いの崖地斜面にも様々な海岸植物が自生。⑦君ヶ浜松林（潮害防備保安林）灯台から君ヶ浜しおさい公園駐車場へ 1.3km。クロマツなどが海側から低木から高木へと変化し、最奥部ではクロマツと交代したタブ林が成立している。林内はマツの落ち葉道が縦横にあり、野鳥や植物を観察しながらの散策は楽しい。



屏風ヶ浦

【主な草本】

春 ハイネズ ハマボッサ ハマヒル  
ガオ ハマエンドウ ヒゲスゲ コウボ  
ウムギ ミヤコグサ

夏 ハマビシ ハマゴウ ハマグルマ  
タイトゴメ スカシユリ ソナレムグラ  
ハマウド ハマサワヒヨドリ ハマタカ  
トウダイ ハマダイコン ハマカンゾ  
ウ イワダレソウ ラセイタソウ ハマ  
ノイブキボウフウ コウボウシバ テリ  
ハノイバラ

秋 ハマエノコロ ハチジョウススキ  
イソギク ツブキ ハマノアキノキリ  
ンソウ ウンラン。



犬岩



犬吠埼



渡海神社



ソナレムグラ



君ヶ浜タブ林